

SUSAP 2023 SPRING

パシフィック大学 プログラム

2023.2.17 ~ 3.13



参加者プロフィール



井野口陽一（団長）
教育学部中等教育
主免専攻英語科4年

7月からの長期留学が決まっており、長期留学にむけての練習として今回の短期留学に参加した。



大島弥澄（副団長）
農学部生物資源化学科
線虫学専攻3年

日常生活における英語コミュニケーション力を上達させ、留学後も研究室の留学生との生活を有意義にすることを目的とし本研修に参加した。



池田航一
教育学部初等教育
主免専攻英語科2年

「長期留学に向けた足掛かりとする」「アメリカを生で見てアメリカという国を知る」「アメリカの教育について知る」という3つの目的のためにこのプログラムに参加した。



大見謝恒秀
経済学部経営学科2年

日本以外で生活するという選択肢が、自分にとってアリなのかを確認するため参加。また今回を逃すと留学するタイミングを失うと思ったため。



福田遥
経済学部経営学科2年

実用的な英語力を身につけること、異文化交流を通じて自分の視野を広げることを目的として本研修に参加した。



平井さやか
教育学部初等教育
主免専攻2年

アメリカでの大学生活を通して、自分の世界を広げるとともに、将来英語教師を目指すに当たって自分の英語力や英語教育を伸ばす土台になれば良いという考えから参加した。



岩間成吾
農学部食資源環境科学科2年

日本とは違うアメリカの文化にとっても興味があると同時に自分の英語能力の向上のために今回の留学に参加した。



寺田愛花
経済学部経営学科2年

私は語学力向上の上達はもちろんですが、現地学生との交流を通じて異文化理解を深めるという目標で留学を決意しました



田崎美羽
教育学部幼小連携教育コース
幼小発達教育専攻1年

異文化を肌で感じる体験をし、自分の視野を広げるため。目の前の問題を解決する力と自立心を身につけるため。



矢ヶ部千宥
経営学部経営学科2年

アメリカの多文化社会の環境を理解し、異なる文化の人々と生活することから新しい知識や経験を得ることを目的としこのプログラムに参加した。

プログラム概要

【期間】 2023年2月17日～3月13日

【留学先】 パシフィック大学 アメリカ

【内容】 4技能をバランスよく身につけ、ボランティア活動や文化交流イベントを通して多くの経験と知識を得ることを目的としています。

パシフィック大学について

パシフィック大学は、オレゴン州フォレストグローブに位置し、1849年に設立され3589人の学生が在籍している私立大学です。

芸術、科学、教育、経済、医療など幅広い学問を学ぶことができ、特に検眼の分野は非常に有名な大学であり、大学校内に病院が建設されていて学生も無料で受診することが出来ます。



授業

月・水・金は9:30～11:20まで Reading & Writing の授業で、13:00～14:50まで Speaking & Listening があり、火・木は9:30～12:20まで Grammar の授業がありました。

Reading & Writing の授業では、ゲームを交えながら楽しく単語力を伸ばし、最終課題としてエッセイを書きました。Speaking & Listening ではアメリカのスポーツ文化の一つでもある

Super Bowl を題材に授業を行いました。また、現地の人にインタビューをする課題も出され、積極的に行動する力が身についたのではないかと感じます。Grammar の授業では名古屋外語大学の日本人長期留学生と合同で授業を受けました。授業中はお互いに刺激し合いながら、休日は留学生同士ともに過ごし楽しい時間を過ごしました。

課題は Moodle というアプリを利用し、ネット上で提出を行いました。インタビュー課題や例文作成や小テストなどといったものがあり、ワークのように一筋縄でいくものではありませんでした。

授業は10～17人の少人数で行われ、先生もしくは学生同士の対話形式で授業が進められ、積極的に自分の意見を話しやすい雰囲気でした。



Speaking & Listening の Jess 先生と

バディとの交流

今年のプログラムにはバディが1から2人いました。学年や専攻は様々であっても、ほとんどの方が日本へ興味を持ってきていて、滞在期間中のサポートをたくさんしていただきました。ドライブに連れて行ってくれたり、バディの寮で料理をしたり、アニメを見たりと、バデ

ィのおかげで充実した留学生活を楽しむことができました。

私たちの滞在に関わってくれたのはバディだけでなく、Japan Club の学生やその他のクラブ活動の学生とも交流をして、多くの関係を築くことができました。

ボランティア

今年のプログラムにはバディが1から2人いました。学年や専攻は様々であっても、ほとんどの方が日本へ興味を持ってきていて、滞在期間中のサポートをたくさんしていただきました。ドライブに連れて行ってくれたり、バディの寮で料理をしたり、アニメを見たりと、バディのおかげで充実した留学生活を楽しむことができました。

私たちの滞在に関わってくれたのはバディだけでなく、Japan Club の学生やその他のクラブ活動の学生とも交流をして、多くの関係を築くことができました。



大学周辺での清掃活動

●ホテル

今回の SUSAP では寮ではなく大学近くのホテルに滞在させていただきました。マクメナミズ・グランドロッジというホテルに25日間、お世話になりました。過去にはフリー・メイソンという秘密結社の集会場所であったそうです。現地の先生も日本人学生にこのホテルをお勧めできることが嬉しいと仰っており、現地でも有名なホテルだそうです。また、私たちの滞在期間中に101周年記念のイベントが開催されており、お客様も多かったですしホテルの廊下に飾られている絵画を閲覧する人や絵画とともに写真を撮影する人も多く見受けられました。私たちも建物内の壁に描かれている文章や絵から、フリー・メイソンについて調べたりするなど、ホテル内でも有意義な時間を過ごすことができました。



ホテルの外壁にあるフリーメイソンの印



ホテルの3階

●市場・物価

オレゴン州は税金がかかりません。円安の影響もあり、何を購入するにも価格が高い傾向がありました。滞在先のホテル近くにスーパーや\$1.0ショップがあり、洗濯洗剤や紙コップ、紙皿などはそこで揃えることが出来ました。また、ホテルの近くには飲食店もあったため利用する機会が度々ありましたが、価格が高いためスーパーで購入する方が比較的出費を抑えられました。



烏龍茶 2L \$7.99

●交通手段

交通手段は主にバスや路面電車を利用しました。どちらも HOPS という交通系 IC カードを利用することができ、1日に2回利用すると、それ以降の乗車には料金がかからず乗り放題のような形式でした。私たちの中には乗降場所を間違える学生も少なからずおり、このシステムで費用を安く抑えられた学生もいたようです。また、バディの車に乗らせてもらう場面もあり日本とアメリカの制限速度の差に驚くことも少々見受けられました。



夜のバスの中

●食事

朝食は各々がスーパーや前日の夜に飲食店で購入したりテイクアウトした商品を食べたりしました。昼食は大学近くの飲食店へ足を運んだり、大学内のカフェテリアで現地の学生と一緒に食べるなどしてアメリカでの食事を楽しむ機会が多くありました。夕食お昼食と同様でした

が、昼食よりも夕食の方がレストランやファストフード店に行く回数が多かったように思います。学生によっては、バディの方にお店に連れて行ってもらったり、寮でバディがふるまってくれた料理を食べたりした学生もいたようです。



学校近くのタコス料理店 *Tacoria Corona*

まとめ

以上にあるように今回の研修に参加した学生は積極的に現地の学生に声を掛けるように努めていたように思います。バディだけではなく留学先の大学が開催しているイベントに自ら足を運び、多くの学生と交流することで手助けをしてくれる人が増えるだけではなく、アメリカの言語や文化についても学べる機会が増えると思うので勇気を出してたくさんの人に声を掛けてほしいです。また、アメリカに留学している日本人の方とも仲良くなるとわからないことや、アドバイスをしてくれるので日本人学生に話しかけるのも良いのではないかと思います。海外留学を経験するからには是非、日本ではできないような経験ができるよう行動をすることが大切だと思います。

「実際に行くことで得られる本当の価値」

教育学部 中等教育主専攻英語科 4年

井野口陽一

本稿では、3週間の現地での経験を通して得られたこと、団長として見た今回の研修、長期留学の練習として参加した今回の研修での成果について述べていきたい。

まずは3週間の現地での経験を通して得られたことについて述べていきたい。私自身が海外に出るのが初めてなのもあり、現地の人とコミュニケーションが取れるのか、授業についていくことができるのか、現地の生活や食事に馴染めるのかといった不安と緊張でいっぱいでした。しかし、実際に現地の人と関わって、私が言いたいことを思い浮かべることができなくても、待ってくれたり、言いたいことを汲み取ったりしてくれました。ランゲージバディともポートランドに出かけたり、一緒にジェラートやタコスを食べたりして交流を深めることができました。バディとの会話の中で、アメリカでも田舎と都会では人が違うことや、彼らアメリカ英語話者にとってイギリス英語は方言として捉えているということも学ぶことができました。バディや現地の学生はとても親切で、ジェラートやコーヒーなどを私たちのためにお金を出してくださって、授業の内容でところがあったら聞いてねとこちらのことに気を遣ってくださり、彼らと貴重な思い出を作ることができました。これを受けて、私はオンライン上ではなく、実際に国境を超えて様々な人たちと接することの偉大さに気づくことができました。

今回は団長を務めさせていただき、そこでも様々な教訓を得ることができました。現地での役割としては、アクシデントが起こった時の対応窓口、先生からの連絡事項を受け取り全体に伝達するといったことがありました。団長を務めたことで、私自身の人として成長にも繋がりました。これは私が目指す教員にも当てはまることですが、有事の際には団長だからと言って、1人で対応するのではなく、チームで対応するということです。例えば、バスが遅れて予定に間に合わないという時には、副部長や部員とともに、対応について共有し、分担して実行するといったことや、国際課の職員の方やJIデスクの方とオンライン会議で現在の状況と今後の対応について情報共有をしなければならない場面があり、その時にも副団長、部員にも話を聞いてもらい、今後の対応について一緒に協議するなど、迅速かつ適切な判断をするために、チームで動くことの大切さについて学ぶことができました。しかしながら、改善点もあり、それは周りに気を遣う、目を向けることです。これができることによって、周りからの信頼が得られ、協調性を持ちながらプロジェクトを進めることができるので、今後改善していきたい。

私は令和5年7月からのオーストラリアへの交換留学が内定しており、今回の研修では長期留学に向けた、予行練習として本プログラムに参加しました。短期と長期留学で異なる点としては、私が長期留学に向かう時には、今回のようにランゲージバディはいませんし、知っている日本人同士で固まって行動するのではなく、自分自身で生活を立ち上げたり、困っていることがあれば、英語で意思表示をしたりするなど、

自分で自分のことを成し遂げなければなりません。長期留学の教訓を得るために、私は日本人同士で行動することを避け、できるだけ困っている時に現地の方に尋ねたり、交流の場面でも現地の学生や方々と接したりすることで、日本語が通じない場面において、いかに英語で伝えるといった体系的なスキルを身につけていきたいと思っていました。何より私は、限られた時間の中でいかに自分のものにするかが大切だと思い、自らで積極的に行動していきました。例えば、現地での交友関係を広げていくことを想定し、火曜・木曜日に開かれるスペイン語クラブやミュージカルイベントに参加して、イベント終了後も現地の学生に話しかけることで、現地の学生との交友関係を広げていきました。写真1はスペイン語クラブで仲良くなった現地の学生、その友人とカフェテリアで昼食をとっている様子です。写真2はミュージカルイベントで仲良くなった学生との写真です。

最後に、長期留学に向けてこの短期留学での学びをつなげていきたいことについて述べていきたいと思います。最も後悔していることとしては、学内での積極的な交流はできたものの、ランゲージバディや現地の学生と予定を立てて家に訪問したりどこかに遊びにいったりすることがあまりできませんでした。

写真3についても、バディからの誘いがあったので、現地の学生と食事やどこかに行ったりするために、誘ったりするなど、学外の場面でも自分から積極的に働きかけ、交流を深めていくことが今の私の課題だと思っています。次に情報収集です。パシフィック大学には学外でも Snow Tubing やボーリングといった現

地の学生との交流を深め、さらに現地でしか楽しめない様々なイベントがあります。このイベントの情報を得るためには、図書館にある掲示板やパシフィック大学のホームページ上の Outdoor Pursuits のタブから情報を得ることができます。また、予約が必要なアクティビティもありますので、現地での生活をもっと価値あるものにするためには、こういった情報収集が大切であると感じました。また、情報源はこれだけでなく、現地の学生に自分がこういうことをしたいと意思表示をしたり、尋ねたりすることで、情報を得ることができます。私たちの仲間の話を聞いて初めてイベントについて知ったものも多く、「私も参加してみかった…」と後悔したことが多々ありました。そこで、現地の学生とのつながりや前述した通り、学外でもランゲージバディや学生に積極的に働きかけることが大切だと思いました。また、これらイベントに一人で参加するのもいいですが、現地の学生を誘って、一緒にイベントに参加することで、彼らと仲も深まりますし、英語によるコミュニケーションの機会も確保されます。よって私は、今回の研修の中で生かしていきたいことは、学内での交流はもちろん、学外の場面においてもご飯に誘ったり、イベントに参加したりするなど現地の学生に積極的に働きかけることが異文化理解や価値のある体験をするためにとても重要ではないと考えています。生活面については、私自身の感覚で、現地の生活に慣れるためには、概ね1週間はかかりました。ですので、長期留学において授業開始日の直前に向かうのではなく、1週間前に向かって、生活を立ち上げ、確立してから学校生活を迎えるのが、大学

の勉強に打ち込むことができ、私にとっても負担が少ないだろうと感じました。この期間を使って情報収集にも徹することができ、長期留学に向けて教訓を得ることができました。これがタイトルにもあるように、実際に現地で生活することにより、実体験から重要な価値が生まれるので、この3週間の研修は私にとって重要な機会となりました。



(写真1) スペイン語クラブで仲良くなった学生



(写真2) ミュージカルイベントでの学生と



(写真3) 最終日のバディとの食事

「日米の大学の違い」

農学部 生物資源科学科 3年

大島弥澄

私は今回のプログラムを通して、アメリカと日本の大学の違いについて聞いてみたいと考えていた。例えば、授業形態や実習方法、就職活動などの「大学の違い」、大学に対する考え方などの「学生の違い」についてさまざまな意見を聞いてみたかった。私自身、帰国後の春からは4年生になることから就職活動や院への進学について考えており、日米の違いを知り幅広い視野を持つことで今後の学生生活のヒントになればと思った。留学に行く前までの私のアメリカの大学のイメージは、日本の学生と同じように授業を受け、長期休みには旅行を楽しみ、3年生から就職活動を意識し始めると考えていた。また日本と異なる点は入学よりも卒業が難しいことくらいだと思っていた。しかし、実際にアメリカの学生に大学の4年間の過ごし方について聞いて、日本とは多くのことが異なると感じた。今回ここでは「授業形態」と「インターンシップを含む就職活動」の2つについて述べたい。

まず授業形態に関してだが、日本の場合1学期に10科目以上取ることが一般的だが、パシフィック大学の場合は3~5科目しか取らず、週に2回同じ科目の授業が行われたりすることもある。また1コマの授業時間も2時間もしくは3時間と長く、1科目を集中して受講することで専門性に特化していることが言える。実際に私も現地で解剖学や香科学の実習授業を見学させていただいてそのことを感じた。解剖学に関しては座学と実習が同学期に開講され、知識をつけたらすぐに実践ができるように授業が行われ

ていた。また実際に動物の死体を用いたり、3D映像を用いたり、時と場合に応じた学習の仕組みが成り立っていた。実験材料や器具も2人以下で使うことが多く、生徒が積極的に授業に参加しているように感じた。

次に「インターンシップを含む就職活動」について話したいと思う。就職活動において企業が学生に求めるものは、学力と経験の二つが主である。日本の場合、他人より優れた経験、例えば留学やインターンシップ、ボランティア活動などを行っていけばプラスαのものとして捉えられることが多く、大学名や複数回の面接等が重要視されることが多い。しかしアメリカの場合、学力よりも経験のほうが重要視されている。面接は1回だけ行われることが多く、3回以上面接がある企業は滅多に見かけないようだ。面接では主にこれまでに行った経験について話し、インターンシップやボランティア活動について深く聞かれる。日本にはSPIという基礎学力テストが行われることを話すと、小中高大という教育課程を卒業している証明があるのにどうしてそのようなテストがあるのかわからないと言われた。様々なことを話すうちに、アメリカでは人と同じことをやっているだけでは意味がなく、自分の特徴や個性をいかに表現することが重要だと感じた。パシフィック大学の学生は1年生からインターンシップに参加する人がほとんどであることを聞いて、なぜそんなにもインターンシップが充実しているのか疑問に感じた。すると滞在期間中のある昼休みにカフェテリアに複数のブースが設置してあり、企業担当の方や大学の教授がいて長期休暇でのインターンシップ案内を行っていた。かなり大規模に行わ

れていて、ブースには学生から話を聞きに行くのではなく、担当者が積極的に話しかけてくれ、そこで申し込みや連絡先交換を行う。大学内でインターンシップ紹介を行なっていることにも驚いたが、もう一つ驚いたことがある。それはほとんどのインターンシップに給料が出ることだ。そのため長期休暇のほとんどを学生はインターンシップに時間を費やしている。また教授のもとでのインターンシップは住み込みで行うこともある。このようにアメリカのインターンシップは参加しやすいような環境が充実していると感じた。

今回紹介した2つの日米の大学の違いは一部だが、現地学生と様々なことを話すうちに大学に対する考え方が少し異なる気がした。アメリカの学生が大学に入学した理由は、学びたい事があり明確な将来性を設定している学生がほとんどだということだ。私が大学入学した当初の、在学中に将来設計ができたらいいなという考えとは全く異なるものだった。パシフィック大学は専攻が細かく分かれており、1年次から専門性の高い授業を受講する。しかし日本の場合1,2年生は教養や学部基礎科目を、受講し、3年生から研究室やゼミへ配属される。早くから専門性の高い授業を受け始めるという環境だからこそ、早くから目標設定を行わなければならないという環境に繋がっているのだと感じた。今回ここで述べた違いは人さまざまなのだが、大学とは小中高校教育の延長ではなく、自らしたいことの目標のための教育機関なのであると認識することができた。



Snow Tubing に行った時の様子

「結びついた私とアメリカ」

教育学部 初等教育主専攻英語科 2年

池田航一

「長期留学への足掛かり」、「アメリカを知る」、「アメリカの教育を知る」というこの三つが、私が今回 SUSAP 研修に参加した目的でした。25日間を通して、アメリカの大学で学生として生活することにも慣れ、ライフスタイルにも適応できていた実感がありました。また、毎日がカルチャーショックの連続で、日本にあってアメリカにない物、またその逆も数多く見つけることができ、他国を知り、自国を知るといふ異文化理解の本質も垣間見ることができたような気がしています。しかし、今回参加するにあたって、本来の旅程ではボランティア活動に教育施設への訪問が含まれていましたが、実際の旅程には含まれておらず、アメリカの教育を知るといふ目標は半ばあきらめていました。

そんな研修も残すところあと1週間を切ったある日の大学で、今回の研修を現地でサポートしてくれていた Jeff さんという方とカフェテリアで二時間ほどお話をさせていただいた時間がありました。彼は両親が日本人で日本語がネイティブながら、ほとんどをアメリカで過ごしているバイリンガルの方で、日本でも生活していた経験があり、私は彼に対して文字通り日本人でありながらアメリカ人という印象を受けました。

そのような異文化理解のお手本のような方と、日本とアメリカの違いについてたくさんお話をさせていただいたのですが、その中で Jeff さんに「なぜアメリカは自由の国と呼ばれるのか知っ

ている？」と質問され、私の知識では、「人種のサラダボウル」と呼ばれるほど多人種多文化が入り混じる国であるため、多様な価値観が存在し、自分の生きたいように生きることができるからだと思い、そのように答えました。しかし、本当の答えは「アメリカ人一人一人が自由を手にし、自由を求めて生きているから」だと言われたとき、最初はとんちか何かかと思いましたが、あとから理由を聞いて非常に驚きました。国家が政策で国民をコントロールしようとするのに対し、アメリカ人は特に嫌悪を感じ、そのコントロールから逃れ、いかに自由に、自分らしく生きることができるかという考えのもと生きているのだそうです。それを聞いて、なぜアメリカ人は政治にあれだけ関心があるのかという疑問に納得がきました。また、歴史から紐解いても、イギリスに勝利し独立して始まったアメリカ合衆国には、自由を勝ち取ったという国民意識が存在していることが関係していると言えるでしょう。

そして、その自由を求める国民意識が一体どこで芽生えるかと言うと、「教育」だと Jeff さんは教えてくれました。アメリカの小中学校では、アメリカの政治の仕組みを教えるのと同時に、「あなたが大統領になったらどのような国にしたいですか？」や「あなたならどのような法律を作りますか？」など、当事者意識を持たせる教育がアメリカでは当たり前のように行われているようです。平和ボケし、政治に関心を持たない人々であふれてしまっている日本にとって、自分なら母国をこうしたいと考えさせることは、今まさに日本に求められているものなのではないでしょうか。私はそう感じ、アメリ

カの教育に非常に興味がわきました。アメリカの教育から、アメリカという国が見えてきて、日本と比べた時に日本の教育の問題点に気づき、日本という国をよくするための教育を考える、ということが私のやりたいことだと気づき、私の教育に対するモチベーションにもつながっていきました。

そして、これは私がアメリカに長期留学したいと思う動機になったことは間違いありません。私は在学中の長期留学を計画していますが、自分の英語力を伸ばすため、とりあえず英語圏への留学をしようと考えていました。しかし、具体的な国を決められずにいました。ですが、今回の研修でアメリカの教育に興味を湧き、アメリカへ留学をしたい、留学でアメリカの教育を学びたいと思うようになりました。これは本当の意味で長期留学への足掛かりとすることができたと思っています。

余談ですが、アメリカの「自由」は必ずしも良い方向にばかり進ませるものではないことも考えられます。例えば、アメリカにとって切っても切り離せないものは「銃社会」です。アメリカで銃規制が進まない理由は、アメリカ人にとってそれが「銃をもって自衛する『自由』への否定」だからというのも少なからずあるでしょう。これは一例に過ぎないですが、ここで私が重要だと考えることは、良い面ばかりを学ぶのではなく、悪い面も含めて「知ること」と思っています。アメリカの教育に関してもきっと一長一短で、日本の方が優れている点もあるはずですが、そこは盲目的にならず、全体を見通した学びを意識して今後も興味に邁進したいと考えています。

まとめになります。留学というのは自分の殻から飛び出すという行為であり、とても刺激的な経験です。きっと何かを得て帰ってこられる、そんな体験であると私は確信しています。私は今回、長期留学がより鮮明なものになり、具体的にはまたパシフィック大学に戻りたいと感じました。アメリカ・パシフィック大学で教育を学びたいと思うことができたのは、言うなれば偶然の経験ですが、それでも今回 SUSAP に参加したからにはほかなりません。参加してよかったと心から思っています。そして、この経験をしっかりと長期留学につなげていきたいです。



Japanese Garden で Buddy との写真

「気づいたこと」

農学部 食資源環境科学科 2年

岩間成吾

私は他とは違います。自分の思うように生きたい人間です。

日々の生活の中で多くの人は当たり前自分の頭の中で自分自身が主人公であるように生きます。それはごくまれな事を除き、当たり前のことであり同時に人として生まれて初めて持つ役割だと思えます。私もその役割に従い、自分を自然に第一に考え、この20年間生きてきたと思います。では、はたして私は自己中心的な人間であるのか。また自己中心的な人とはどのような人か。この疑問の答えを私は知りたいです。

そこで周りの友達に私は自己中心的な人間であるかという質問をすると、「あなたは気を使えるし、周りが見えているから自己中心的な人ではない」と答えてくれます。しかし、私が知りたい答えはそれではありません。もっと人としての本質的な答えです。その答えに私が少しでも近づくためには、絶対的に新たな発見や違う物事の見方に気づくことが必要だと思えます。では、どうしたらその発見や考え方に気づくことができるかを考えた結果、私が思いついたのはまず海外に行くという事でした。なぜなら海外に行くことで日本では感じる事の出来ない文化、宗教観、人間性などを感じることが出来ると思ったからです。そのため私は早く日本という国を出て他の国に行ってみたいという気持ちが年々強くなっていました。そこで今回のパシフィック大学の留学プログラムに参加しました。

アメリカに行ってまず始めに確かめたかったことは国籍が違おうとしても、人は変わらない、どの国にも良人も悪人も存在するという事です。私は、この研修に参加するまで海外に行ったことがありませんでした。そのため異なる国、文化で育った人はどのような人であるかという事に興味を持ちながら、多少の怖さを感じていました。しかし実際は、私達日本人のように仕事や勉強、スポーツに励み、時には冗談を言い笑い合い、人としての核は何ら変わりませんでした。この事は普通に考えれば分かることですがしっかりと自分の肌で感じる事が大事だと思っていました。

ですが、アメリカ人と日本人の間に相対的に人間性の違いがありました。私が考える違いとは失礼の基準、他人へのリスペクトの強さ、他人のプライベートに干渉しすぎないという所です。なぜそのような違いを感じたのか。その答えはアメリカ人とのコミュニケーションやアメリカ人と共に過ごした時間の中にあると感じました。私が思うに多くのアメリカ人は自分の思っていることをしっかりと相手に伝え、行動しています。これはいわゆる積極性というものだと思います。これはアメリカでの授業の中でも見られ、授業中に自分の意見を発言し、自分が分からないこと質問するという事はアメリカでは当たり前のことでした。ですが日本人の多くは周りの事を考えて遠慮し、間違えたら恥ずかしいという気持ちを持っているため積極的に発言や質問をしない人が多く居ると思います。なぜこのような積極性の違いがアメリカ人と日本人にあるのか。私が思うにアメリカ人は真面目に物事を取り組む人へのリスペクトが強い、

いわゆる他者へのリスペクトが強いと思います。そのためアメリカ人の積極性が強い理由として日本よりも他者に対してのリスペクトが強いという人間性の違いが日本とアメリカの積極性の違いを生み出しているのではないかと思います。また私が留学中でのアメリカ人とのコミュニケーションを行う時、彼らは Yes か No かをはっきりと言い、自分の思っていることをしっかりと伝えてきました。つまり彼らは自己主張をしっかりとしているのだと思いました。しかし彼らは他者の意見を否定せず、他者のプライベートに邪魔することなく、お互いに認め合っていました。このことは私が思うアメリカ人が他者へのリスペクトを強く感じたもう一つの理由です。

また、私は現地の学生に言われてとても心に残っていることがあります。それは日本人の留学生は個性の違いが分かりにくいので覚えにくい、人としての個性がないとその人がどのような人か分からず関わるのが怖いと言われたことです。このことを言われた時、私は確かにその通りだと強く思いました。日本に居た時にはこのような考えは持っていなかったので私にとってこのことはとても衝撃的でした。そのようなことを言われた理由としてアメリカと日本の社会の仕組みの違いが関係していると思います。なぜならアメリカでは競争力が激しく自分の個性をいかに出せるかが鍵になっており、個性を出せないと埋もれてしまい、出世や成功を掴み取ることができないという社会の構造があるからです。しかし日本では多くの場合が真面目にコツコツと仕事や勉強をみんなと同じように行い、集団行動が求められる社会です。日本では

小学校や中学校などで集団行動の授業があります。しかしアメリカではその現地の学生によると集団行動という授業がないと言っていました。集団行動ができるということは日本人の良さであるということは私も理解しています。しかしグローバルな現代社会において、自分の個性をしっかりと持つことで周りの集団から一歩前にでて世界で活躍できる人間になることが出来るということを強く思いました。

日本で自己中心的な人と呼ばれる人は一般的に自分の個性が強く、集団行動から外れて自分の思うように行動する人です。一方でアメリカ人は自分の個性を持ち、基本単独行動します。しかし、私はアメリカ人を自己中心的な人間とは思いませんでした。なぜなら行動一つ一つに強いリスペクトを感じたからです。ここで私が求めていた自分が自己中心的な人間であるか、また自己中心的な人とはどのような人かという問いについて私なりの答えが出ました。それは先ほどのような行動をする人が自己中心的な人間ではなく他者へのリスペクトを持たずに行動する人が自己中心的な人間であるということです。今まで私は他者へのリスペクトが足りていなかったため自己中心的な人間であったなと感じました。そのためこれからは他者へのリスペクトを常に忘れず自分の個性をしっかりと出しながら生きていこうと思いました。また今回、アメリカに行ったことで気づいたこの発見は将来私自身をより成長させてくれると私は思います。だから今回留学に行けたことに感謝しつつまた機会があれば留学したいと思いました。



現地の友達の集合写真

「留学なんて自分には関係ない、と思っている 人にこそ SUSAP を推したい」

経済学部 経営学科 2年

大見謝恒秀

前半に SUSAP に参加するメリットを、後半に現地での経験を踏まえての注意点やアドバイスを記します。

まず、参加するかどうか迷っている人向けに SUSAP のメリットを挙げます。そもそも私は大学入学前からやりたいことがあったため、留学はほとんど考えていませんでした。しかしそんな私が結果として SUSAP に参加して、ここに文章を書く事になりました。そのため私のように参加するかどうか迷っている、あまり留学には興味がないという人向けにメリットを伝えます。メリットは大きく3つあります。

1つ目は人生の選択肢が増え、目の前の出来事が大きな目で見られるようになることです。私は日本で生まれ育ち、一生日本で暮らしていくものだと思っていました。しかし今回実際にアメリカで約3週間生活をして、海外もアリだと感じました。海外で暮らしたり仕事をしたりすることが特別なことではないと分かり、人生の選択肢として考えられるようになったのは、一生日本にいては得られない大きな収穫だったと思います。また帰国して感じたのは、今までなんとなく大変だなと思っていたことが、とても些細な事に感じられるようになったことです。自分の悩みやニュースの出来事も、まるで部屋の中に迷い込んだ一匹の蟻レベルに感じられるほど大きな目で物事を見られるようになったのは、良い変化でした。

2つ目は、美味しいものが沢山食べられることです。良くも悪くもこの短期留学という長すぎず短すぎない期間が、勉強と観光と日常生活をバランスよくお試し経験するのにかなり適しています。色んなところに行ったり、色んな経験をしたり、色んな美味しいものが食べられます。最初は物価の高さに財布を出すのをためらってしまいますが、ぜひ食べ物は挑戦してください。フードトラックのハンバーガーは本当においしかったです。

3つ目は、英語の勉強する理由を見つけられることです。正直言って、個人的にはテストの点のための勉強はもううんざりです。加えて、ネットさえあればいくらでも翻訳ができるこの時代で、一生日本で生きていくならそこまで英語を勉強する必要性を感じませんでした。だからこそ確かめる必要がありました。実際に日本の外で生活してみて、自分は一生日本でいいのか、それとも海外でも生活してみたいと思うのかを確認するのです。それを踏まえて自分に英語が必要なのかどうかを見極められるのは、またとない絶好の機会です。井の中の蛙のままで自分に英語は必要ないと決めつけるのは、あまりにも早すぎないでしょうか。

後半は、注意点やアドバイスを伝えます。こちらも大きく3つあります。

1つ目は参加の目的を具体的にすることです。抽象的な目的は何をやったら目的が達成されたかの判断ができないため、現地であれもこれもしようと焦り、結局自分の首を絞めます。より自分の中で納得感のある目的設定をすることが大切だと現地で過ごしていて感じました。

2つ目は体調管理です。今回私は最後の1週間でコロナにかかってしまい、ホテルで療養生活を余儀なくされました。海外でコロナにかかって病院にまで行くという、それはそれで面白い経験をしましたが、やはりおすすめはできません。そのため体調面のリスクを少しでも小さくするために、ぜひ持ち物リストの参考にして頂けたらと思います。個人的には、酔い止めの薬、市販のかぜ薬、絆創膏(ケアリーヴ)、体温計、蒸気マスク(のどぬーるぬれマスク)があれば良いと思います。長時間フライトになるため、一度でも乗り物酔いを経験したことがある人は酔い止めがあると安心です。春は季節の変わり目なので、体調を崩しやすいです。かぜ薬もしもの場合に備えてあると役立ちます。また、絆創膏は怪我したときにも使えるのはもちろん、就寝時に口呼吸をして喉を痛めてしまうのを防止する、口閉じテープとしても使えます。ケアリーヴは吸着力抜群でした。また滞在する部屋に必ずしも加湿器があるとは限りません。タオルを濡らしてもいいですが、部屋で暖房をかけるならすぐに乾きます。春休みに渡航するなら蒸気マスクは日数分あって損はないと思います。他の商品よりものどぬーるぬれマスクの方がしっかり効果を感じられました。正直、体調を崩すことを想定して持って行けばよかったと後悔しています。

3つ目に全てを楽しむ気持ちと柔軟な心を持っていくことです。これは冗談抜きで最重要項目です。私たちはグループで参加します。よく「留学に行っても日本人同士で固まるな」的なことを聞きますが、それはアメリカ SUSAP では比較的難しいです。1人で予定を全て埋めら

れるなら話は変わりますが、予定がない時は他のメンバーの予定と一緒に付いていくということも多々あります。加えて夜の外出や行動は安全面から絶対に1人でするなどというお約束付きです。必然的に日本人同士で行動する場面は多くなります。また、部屋も1人部屋なら良いかもしれませんが、今回は2人部屋でしたし現地では英語で会話しようとする前に決めましたが、それもできたのは限られた間だけでした。ハズレのご飯に当たることも、バディが忙しくて一緒に活動できないことも、思い描いていた経験ができずに想定外のことが起きてしまうことも多々あります。あらゆる面においてです。そうなった時にその状況を受け入れ、できれば楽しみ、柔軟に対応できるかどうか、このプログラムがあなたにとって有意義なものになるかを左右すると思います。何事も楽しむ気持ちを忘れないで下さい。

最後に細かいアドバイスです。100均でトラベルスリッパを買ってください。ノイズキャンセリングイヤホンは耳栓代わりにもなるので、あると便利です。飛行機の座席のヘッドレストは左右が曲げられて頭を固定できるのでネックピローは個人的には必要なかったです。円安でも日本円で4万円分の現金を両替して持って行けばもう十分で、基本はクレジットカード(VISAかMaster)で支払えばOK。両替の際には10ドル札数枚と残りは全部1ドル札で両替しましょう。洋服は着替え2日分+パジャマ1着、下着と靴下は少し多めを推奨。衣類は多いと着ないし帰りに荷物が入らなくて捨てることとなります。洗剤は大容量のものを割り勘して現地調達すると良いです。余ったら現地の学生にあ

げましょう。ブラックサンダーやアルフォートなどのファミリーパックのお菓子は、色んな場面で役に立つので多めに持って行きましょう。日本人メンバー同士で英語で会話をするなら、日本語を話してしまった人がアイスを奢るといった罰ゲームを設定して、ゲーム感覚で行う工夫があるとやりやすいです。正直中学英文法と高校1年生レベルの英単語を復習していけば、現地では十分楽しめます。時間がなければ最低限、その範囲の復習をして渡航することをおすすめします。難しい単語よりもシンプルで発音よく、聞き取りやすい大きさの声で話すことのほうがよっぽど大事です。

長くなりましたが、現地で経験することの多くはここでは触れていません。何が待っているのか、何があるのか、それは現地に行った人にしか知りえません。ぜひ楽しんで来てください。



大学近くのタイ料理屋にて

アメリカで過ごして得た発見と成果 教育学部 幼小連携教育コース 1年

田崎美羽

私が今回この短期海外研修プログラムに応募したのは、海外へ行き、異文化を肌で感じる体験をし、自分の視野を広げること、さらに目の前の問題と向き合って解決する力や自立心を身につけたいという思いがあったためである。このプログラム25日間を通して、日本には絶対に経験することができなかつたであろう様々な出来事を通して色んなスキルを身につけることができたと思う。このような濃く充実したアメリカでの留学生活の中で私が印象的だったことと実際に現地に行ってみて得られた成果がいくつかある。

まず、アメリカでは人と人の距離感がとても近いことであった。日本では見ず知らずの人に話すことはあまりないが、アメリカのショップでお土産を買う際には、店員さんから「どこから来たの?」と話しかけられたり、会話の最後には「楽しんでね!」と言ってもらえたり、フレンドリーで温かい接し方を受け、日本のかしまった接客との違いを感じた。それに加え、Speakingの授業で出されたインタビュー課題では、知らないパシフィック大学生に話しかけアンケートを取らなければならなかつたのだが、多くの人が日本について質問をしてくれたり、服装を褒めてくれたり、他人の私であれ積極的にコミュニケーションを取ってくれた。ドアの開閉も自分からする人が多く、その度に「Thank you」「Sure」と関わりを持っていて、人と人の距離感が近く気軽に話しかけられるアメリカの環境はとても素敵だと感じた。

また、アメリカに到着して最初のプログラムであったバディーとの顔合わせ会で、自分の知っている英語の発音やスピードと実際のネイティブの英語には大きな差異があり衝撃を受けたことが忘れられない。最初はバディーが何を話しているのか、なぜ笑っているのかさえ理解できず、その場に合わせて笑うことしかできなかった。買い物の際にも、当然すべて英語で話さなければならぬため、自分の英語の発音だけではうまく伝わらないことも多かった。このように自分のリスニング力と発音にとってもショックを受け悔しかったが、だんだんとバディーや周囲のアメリカ人が何を言っているのか少しずつ理解できるようになった。理解できるようになったからこそ、自分の考えを伝えたい時や相手の話にリアクションする時に、言いたいことをうまく英語に変換できなかつたり語彙が頭に出てこなかつたりして、もどかしい気持ちも生まれた。しかしその分自分の言いたいことをうまく伝えることができ、相手が自分の英語を理解してくれた時の喜びと楽しさは大きく、嬉しい気持ちになった。バディーとはアニメ、好きなアーティスト、ハワイの文化などについての話で盛り上がる事が多く、日本に帰国してからも毎日連絡を取っている。アメリカで仲の良い友達ができ、バディーと様々な場所を訪問できたことは一生の財産だと思っている。

それから、この短期海外研修では Writing & Reading・Speaking & Listening・Grammar の3クラスの授業に分かれていたのだが、どのクラスも授業中にゲームや休憩が挟まれていて、90分や180分の授業が全く退屈にならなかった。また、英語がうまく話せなくても自分のペース

で話せるよう、先生が相槌を適度にとってくれたり、どんな質問に対しても寛容な姿勢で受け止めてくれたりしたので、生徒としても楽しく学べる授業だった。日本の授業の印象としては堅いイメージだが、アメリカは授業中お菓子を食べてもよいとされていて、リラックスした状態で授業に臨むことができ発言しやすい環境ということもあってか、最終的には発表も積極的にできるようになり、グループワークやインタビュー課題を通して自分の英語力アップと自信に繋がったと思う。

そして、この研修では日本の良さにも改めて気付くことができた。例えば日本のデパートのトイレがいかに清潔なのかということである。アメリカのトイレに行ってみると、ドアを閉めても隙間があったり、床にトイレットペーパーが散らばっていたりして日本との違いを実感した。他にもアメリカでは夜道が危険であったり、薬物中毒者が徘徊していたりと、治安に関して日本の方がまだ安全な面があると身をもって気付かされた。一方で、アメリカでは人間関係が日本ほど希薄でなかつたり、人と違って当たり前という意識が根付いていたり、沢山の良さも発見することができた。

このように日本とアメリカそれぞれの長所を知ることができた。それだけではなく、文化や習慣の違いについて、現地だからこそ学ぶことも多かった。また、自分で物事をなんとかする力や行動力も身につけることができた反面、生の英語を目の前にし、自分の英語力の低さにも気付かされた。この25日間で得た学びや発見を大事にし、自分のスピーキング力をさらに磨い

て、もう一度海外へ行き多様な人との関わりを増やそうと考えている。



アメリカで仲良くなったバディ達と

「1か月の短期留学を通して」

経済学部 経営学科 2年

寺田愛花

私がパシフィック大学への短期留学を決めた理由は、自分自身の語学力の向上を図ること、海外の生活や文化に直接触れたいと気持ちから留学を決意しました。25日間の留学を通して日本だけではできない多くの経験をすることが出来ました。また、自分がいかに無知であるかということや挑戦することの難しさに気づかされました。今回の留学で特に強く感じたことは3点あります。

まず1点目は、日本とアメリカのそれぞれに良い側面があるということです。アメリカへ行く前の私のイメージとしては、日本は他の国と比べると町が綺麗であり、治安がいいことや親切な人が多いというイメージを強く持っていました。間違っではありませんでしたが自分の予想と異なる部分が所々あるなと感じました。まず、私がアメリカに行って最初に感動したことは信号機のない歩道で必ずと言っていいほど車が停車してくれたりバックしてくれたりしたことです。日本でも停車してくれる車はいますが大体は数台が目の前を通り過ぎるような気がします。また、“Hi” “Have a nice day” “How about you” など知らない人であっても日常的にフレンドリーな対応を取ってくれる人が多く優しい人ばかりだと感じる場面に遭遇することが多かったです。授業の課題として現地の学生にインタビューをする課題が出されたのですが、誰に声を掛けてもすぐに協力してくれますし、名前を尋ねてくれたり、他に協力できることはないかといってくれたりして優しい人が多

いという印象を受けました。ボランティア活動でゴミ拾いをしている際にも通りすがりや家からわざわざ出てきて“Thank you!”と言ってくるなどお互いに気持ちの良いコミュニケーションをとる機会が多かったです。日本人も親切な人ばかりですが、敬語などの日本語表現も関係しているかもしれませんが、どこか他人行儀なところが少し寂しいと感じました。ここまでアメリカの良い点を挙げてきましたが、日本の良い点だと改めて感じる場面もありました。日本人は幼いころから食べ物や農家さんに感謝して食事をしなさいという教育を受けてきますが、現地の学生に「いただきます」という日本語はとても素敵だと褒められたこともあり、これからも感謝する気持ちを大切にしていきたいと感じました。

次に2点目は、相手と仲良くなるためには自分で伝える努力をすることと伝えるための知識を持っておく必要があるということです。これまで英語を使ってコミュニケーションを取ろうとしたことがない私にとって英語でしか会話ができないという状況は今までに経験しことのないう大きな壁でした。語学力向上を図ることも目的の一つとされていたプログラムではありましたが、もっと自分のスピーキングスキルを高めたり、ボキャブラリーを増やしたりすることが事前に出来たのではないかと感じました。しかし、今回の研修で自分にどのような学習方法が合っていて、留学するためにどれくらいのボキャブラリーが必要なのかを知ることが出来、今後の英語学習の糧にしていきたいと思います。さらに、今回現地の学生と会話を重ねることで特に感じたことは、相手の話していることが分

からなくても、相手の話している内容を予想して返事をするのも大切だと感じました。結果的に間違っている相手は笑うことはないもので、一度話してそれを訂正してもらうことで勉強になるなど感じました。実際、私はこれをする事で失敗することを恐れずに積極的に話せるようになりました。

最後に3点目は、留学に行ったことはこれからの将来を考えるうえで重要な分岐点になったように思います。将来についてある程度のことは決めていましたが、就職後、どんなことを達成するためにどのように動きたいかが明確ではありませんでした。しかし、今回の研修を通して、就職後に自分がどのような目標を持って活動したいか、そのために今自分がどのような経験をすべきかを知ることが出来ました。これは留学をしなければ気づかなかったことですし、今後の自分の活動も曖昧なままだったのではないかと思います。

今回の研修は自分について知ることが出来、さらに自分を大きく成長させることが出来たように思います。これまで、海外を経験したことがなかった私にとって海外はどこか他人事のように思っていたのですが、この研修でもっと国際社会に目を向けたいように思いましたし、また留学できる機会があるのなら挑戦してみたいと思いました。



NBA 観戦

「世界を見るとはどういうことか」

教育学部 初等教育主免専攻 2年

平井さやか

今回、このパシフィック大学英語コミュニケーションプログラムに参加した理由は、アメリカで生活することで自分の世界を広げたいと考えたからだ。実際、3週間強アメリカはオレゴン州での生活を通して、日本にいただけでは得ることのできない濃い経験を通して自分の視野を広げることができたと同時に、日本とはどのような国か、日本人とはどのような人なのかという「日本人としての自分」を明確化することもできた。

大学では、リーディング・ライティング、スピーキング・リスニング、グラマーの3つの授業を受けた。これらの授業は日本の留学生向けの授業ということもあり少人数ではあったが、日本の大学と比較して教授と学生の距離が近いことに驚いた。日本の大学では、教授と距離が近いということは少人数のクラスであればあり得るかもしれないが、ほとんどの場合、教授は教授、学生は学生の立場ではっきりと分かれており、連絡も直接ではなく電子メールを通して行われることが多い。一つの授業で、授業中にある学生のスマホに友達から電話がかかってきて、その教授も知っている学生であったため、電話がかかってきた学生から「教授も電話に出たいですか？」というような発言があったのだが、その状況にとっても驚いた。また、単元のまとめにはクイズサイトを使って楽しく復習するという活動もあった。このように教授と学生の距離が近く、カジュアルな雰囲気であれば、学生は質問や発言がしやすいであろうし、その分

知識の定着や学力の向上にも繋がるのではないかと考えた。私は将来、中学校の英語教師を目指している。学校で英語の授業を行う上で、今回オールイングリッシュで受けた文法やリーディング、スピーキングの授業内容を大いに参考にしたいと感じた。

大学生活を送る中で、日本と違うと感じたことに、寮もある。パシフィック大学には、フォレストグローブのキャンパス内だけでも6つの寮があり、学生は入学して1年間は必ず寮で生活しなければいけないという話を聞いた。日本にも同じようなシステムがある大学はいくつかある。しかし、その寮には、リビングに大きいテレビやソファ、ビリヤード台や卓球台といった娯楽が充実していたことに驚いた。実際私も、空き時間に現地の学生と一緒にビリヤードや卓球をして、仲を深めることができた。各寮も1人部屋から4人がシェアする寮まで幅広く、現地の学生とシェアしながら生活することができれば、日常的な英語力も向上するだろうと感じた。

また、仲良くなった現地の学生の1人にキリスト教徒がいたのだが、彼との出会いは私の世界が広がる大きなきっかけとなった。日本は無宗教、あるいは重層信仰の人がほとんどであり、宗教に疎く、偏見さえあるように感じる。キリスト教徒の彼と話をしたり日曜日に教会で礼拝したりすることを通して、日常的に神に祈るということが基本的な生活習慣となっている人や涙を流しながらも自分の罪を贖おうとしている人がいるということを知った。当然ではあるが、生き方や価値観は人によって大きく異なるということを改めて実感した。同時に、キリ

スト教だけでなく仏教やイスラム教、その他の宗教について知り、理解しようとしなければ、本当の意味での多文化共生社会は実現しないのだろうとも考えた。

オレゴン州にはホームレスの方々も多く、バスや電車、街中でも至る所で目にする機会が多かった。私の実感としてだが、日本ではホームレスの方を見ると汚い目線を送ったり「見てはいけないもの」として考えないようにしたりする。しかし、オレゴン州ではバスや電車は所得が低い方も利用しやすいようになっていたり、そのような方々に向けて様々なボランティア活動がなされていたりと、支援が充実していた。「自分と違う人」を見て見ぬふりをするのではなく、援助しようという姿勢で接しようという態度が大事だということをこの経験から学んだ。

上記以外にも、25日間のアメリカ生活で得た経験や感じたことは多くある。最初1週間は「日本は清潔だしご飯も美味しいし帰りたい」という気持ちもあったが、帰国直前には現地で多くの友達を作ることができた事に加えて、アメリカの良さ、パシフィック大学の良さを知ってもっと滞在したい気持ちでいっぱいだった。私は、将来、長期の海外留学か海外で働くことが一つのゴールである。今回のプログラムでは、自分の英語力の拙さ、いかに現地の方々と積極的に話すことが大事かということを学んだため、これからより一層英語力向上に力を入れていきたい。そして世界を見たことで分かった、自分の視野の狭さや日本の良さ、幅広い考え方や人間性などは、今後の生活でより多くの人と関わって行く上で生かしていきたい。



体育館でのバスケ

アメリカでの留学生活を通して

経済学部 経営学科 2年

福田遥

私が今回パシフィック大学のプログラムに参加した理由は、スピーキング能力を中心とした実用的な英語力を身につけたい、異文化交流を通じて多様な価値観に触れたいと考えたからである。25日間の留学生活を通して多くの人と関わりながら、話したいことを英語で伝えることの難しさや文化の違いを肌で感じ、自分の視野を広げることができた。

実際にアメリカで生活してみて様々な場面で日本との違いを感じた。一番大きく違うと感じたのは「会話する機会の多さ」である。留学前から海外にはコミュニケーション能力が高い人が多いというイメージを抱いていたが、想像以上であった。現地の学生だけでなく、宿泊したホテル、食事のために訪れたレストランといった場所でも気さくに話しかけてくれた人が多く、初対面の人と会話する機会が数多く存在した。特に印象的だったのはスーパーで店員が客に How are you? と尋ねたり、会計後に Have a nice day! と声をかけたりしていたことである。これは日本ではほとんど見られない光景で、実際に店員に話しかけられたときとても新鮮に感じたと同時に嬉しい気持ちになった。また、ドアがあるところを通るときは知らない人であってもドアを開けてくれて、逆に開けて待っているときは笑顔で Thank you! と言ってくれたり、道路を渡るときにはすぐに車が止まってくれて、仮に歩道にはみ出ているときはわざわざ下がって道を譲ってくれたりという場面でも違

いを感じた。この他にも衣服等の寄付施設の多さ、ゴミ箱の多さ、音楽を聴きながら仕事をするといった働き方、ほとんどの人が水筒を持ち歩くといった環境保全への意識の高さなど、現地に行ってみて様々なことに気づくことができた。

また、英語力の向上に関しては積極性と併せて成長できたと思う。最初は相手が言っていることを理解することに精一杯で自分が言いたいことを上手く言葉に出来なかったり、間違いを恐れて自分から積極的に話しかけることができなかつたりした。しかし、現地の学生との会話や地域の人との交流、レストランでの注文やスーパーでの買い物など常に英語に囲まれた環境で生活することで、リスニング能力・スピーキング能力を中心に培うことができ、理解力や発信力を磨くことができた。現地の授業はペアワークやグループワークが多だけでなく、プレゼンテーションがあつたり、自分で動画を撮る課題があつたり、インタビュー課題が出たりして英語を話す機会が非常に多かつた。そのため、自分の意見をきちんと持った上で発信する力が求められ、そのことが実用的な英語力の向上にも繋がつたと思う。特にインタビュー課題では複数人の回答が必要で、最初はバディや知っている学生に協力してもらっていたが、回を重ねるごとに初対面の学生にも自分から話しかけるようになり、自分の意識が大きく変わったと感じた瞬間であつた。もちろん最初は緊張したが、話しかけた全ての学生が笑顔で親切に対応してくれ、質問以外にもお互いのことについて話したりしながら、多くの人と交流することができて達成感を感じた。きっかけは課題であ

つたが、自分がどう取り組むかによって大きく変わると改めて感じ、積極的に行動することの重要性や英語を話すことの楽しさにも改めて気づくことができた。英語力が向上したというのはあくまでも留学前と比較してのことであり、むしろ留学を通して自分の能力の低さを痛感し、英語の学習をもっと頑張ろうと思えた。そうした意味でも今後の学習に非常に大きく影響する機会となつた。

今回の留学は私にとって初めての海外で毎日がとても刺激的だつた。相手の言っていることが分からなかつたり、英語を上手に話せなかつたりと上手くいくことばかりではなかつたが、異文化交流を通じて多様な価値観に触れ、日本から出なければ気づかなかつたような日本の良さに気づくことができたり、実際に関わってみなければわからないような現地の人の優しさを知ることができ、実際に足を運ぶことの重要性にも気づかされた。また、日本人同士でも英語を使って会話をしたり、発音の練習をしたりと、英語を学習するにあたってのモチベーションの向上も図られた。とても充実した時間を過ごすことができ、本当に参加して良かったと思う。これまでの人生で一番貴重な経験で、人として成長する機会になつただけでなく、これからの行動を変えるきっかけにもなつた。今回学んだことを生かして今後の生活を有意義なものにしていきたい。



Pie Night で地域の方と交流したときの様子

「多文化社会の共存を実感して」

経済学部 経営学科 2年

矢ヶ部千寿

私が今回のプログラムに参加したのは、在学中に海外に留学に行くという目標があったからです。また、留学中の目標としてはアメリカの多文化社会の環境を理解し、異なる文化の人々と生活することから新しい知識や経験を得たかったからです。

私は主に多文化社会やアメリカで驚いたことについて書いていこうと思います。アメリカに着いてまず驚いたことは、パシフィック大学には様々な国や地域の出身の学生が集まっていたことです。仲良くなった学生にはメキシコ・ハワイ・インド出身者がいて、バディが中国人とアメリカ人のハーフでした。その友達と話すときそれまで自分が知らなかった知識や文化を学ぶことができました。例えば、ハワイには独自の言語があったり独自の食習慣があったりと、同じ国にしてもアメリカ本土との違いを発見することができた。このように、多くの文化が共存できていることの背景には、それを受け入れる人々や環境の存在が大きいと考えました。キャンパス周りには、日本食・ハワイアン・中華・メキシカン料理のレストランが多く立地してありました。私のバディにアメリカの多文化社会のことをどう思っているのか質問してみると、他の文化を学ぶことに対してポジティブな考えを持っていました。様々なカルチャーショックを体験することでより多くの人と簡単につながることができます。また、そのバディはアメリカとは異なる日本や韓国のように伝統を守り続けるために、一つの文化社会しかない国の在り

方にも関心を持っていました。

日常生活でも日本と異なるところに驚くことが多々ありました。日本では目的地でバスを降りるときはボタンを押すのが普通ですが、アメリカでは黄色い紐を引っ張って降りることを知らせる仕組みでした。また日本では学期が始まる前に教科書を購入して、授業に持参するのが一般的ですが、アメリカでは購入する以外にお金を払って借りるという選択肢もあり、借りるのに約 30\$（日本で 4000 円ほど）したことに驚きました。一番関心を持ったのはアメリカと日本の教育の違いです。日本の高校では毎日教科ごとに課題が出て、大学に入る際には共通テストや大学毎の学力試験や面接、推薦を受けて入学するのが一般的です。大学では講義前に予習することは必要ですが、毎回授業後に大量の課題がでることはありません。一方アメリカの高校では課題が出ることは少なく、大学進学には学力面よりも人格面が重視され、入学後は専門分野を突き詰めて勉強していくので、毎回授業後に大量の課題が出されます。アメリカは大学卒業が日本よりも難しいのでこのように日本と違う面が出てくるそうです。これを聞いてアメリカは狭く深く日本は様々な分野を学ばせる広く浅くの勉強をしていると思いました。留学中に地域の住宅街をボランティア活動で清掃したとき、掃除中その住宅街に住んでいる人がドアを開けて、「Thanks you!」と大きな声で言ってくれました。アメリカの人は感情表現が豊かなのだと感じました。このことはバディや留学先の友人と話した時も感じたことでした。例えばバディと食事に行く約束をしたとき、私が「楽しみにしているね」と言うと「I cannot

wait!」とリアクションしてくれました。アメリカの人はオーバーリアクションというのは良く聞く話ですが、実際に体験してみると嬉しくなりました。

今回の研修ではバディと初めて会った時上手く英語が使えず、相手が言っていたことが聞き取れないでこの 3 週間大丈夫かなと心配になりました。しかし、ジェスチャーや基本的な英単語を使いながら一生懸命話したら相手に伝わって、少しずつ話せるようになり笑顔で楽しめるようになりました。初めての海外ということもあり、緊張や不安から体調を崩したこともありましたが徐々に慣れていき、バディ以外の様々な友人も得ることができました。今の時代調べればその土地に行かなくても文化や習慣を知ることができますが、実際に行かないと経験できないことは調べて分かる事よりもはるかに多いです。多文化社会の一端を見たり感じたりすることで、自分の視野や考えを広げることができました。これからも様々な挑戦をポジティブにとらえて頑張っていきます。



カフェテリアでバディと